

ギコンくん  
が  
いく

## 発明音頭をご存じですか？



初めまして、ギコンくんです。  
このコーナーでは、特許庁での  
気になるトピックを紹介して  
いこうと思います。  
記念すべき初回は、「発明音  
頭」を紹介します。

「素敵な意匠～。元気な発明～。…うん、我ながら上出来な曲です。きつと踊りもあつた方が良いですね、ここは広いので練習できそうですし。」

ふむ。なんだか騒がしいのう。

「パテッ！ど、どちらさまですか？」

ワシはコレじいさんと皆に呼ばれておるが、そなたは誰じゃ。「初めまして、私はギコンくんと言います。騒がしくてごめんなさい。あの、コレじいさんはここで何をされているのですか？」

ワシは見ての通り、ここ特許庁のロビーで久しく胸像をしておる。先ほど何か言っておつたようじゃが、何か悩み事があるならワシで良ければ相談に乗ってやってもよいぞ。「実は私、特許庁の公式マスコットキャラを目指して、日々ひたむきに頑張っているのですが、特許庁にはテーマソングが無いことに気付いたので、自分で作ろうと思って練習をしていたところでした。」

なんじゃそんな話か。まあ良い、努力するのはそなたの自由じゃ。それにしても特許庁のテーマソングか、懐かしいのう。昔には似たようなものがあつたのじゃぞ、もう随分古い話になるがのう。

「パテッ！そんなものがあつたのですか？」

今から70年以上前の話になるが、昭和9年に行われた特許法施行50年記念行事で、『発明音頭』（作詞：島田磐也氏、作曲：水原英明氏）というものが制作されたことがあるのじゃ。特許庁の広報誌「とっきょ」（昭和57年4月号）でも紹介されておるが、施行50年記念行事にあわせて、『発明思想を最も民衆的に普及徹底せしむる一方法』として制作されたのじゃ。

「発明音頭…。あまり耳にしないのですが、今でも使われているのでしょうか？」

さすがに今は使われていないじゃろう。実は、発明音頭の音源は長い間失われておつたのじゃ。当時二千枚のレコードが作成されて関係各所に寄贈されたのじゃが、それから長い間、音源は見つけれないままじゃつた。見つかつて本当に良かったのう。

「そうなのですか、古くて新しいものなのですね。興味が湧いてきました。どこで聞くことができるのでしょうか？」

「とっきょ」（平成19年9・10月号）でも紹介されておるが、



特許庁図書館には、発明音頭のレコードが保管されている。昭和61年になって外部から寄贈されたものだそうだ。

特許庁図書館で閲覧可能な資料として登録されておる。そこならカセットテープで聞くことができるのじゃ。

「全然知りませんでした。発明音頭の他にも、何か歌が作られていたりするのですか？」

なかなか鋭いのう。実は、施行50年記念行事の際に同じく作られた『発明の歌』（作詞：文部省図書監修官 井上 赴氏、作曲：東京音楽学校助教授 橋本国彦氏）というのものもある。こちらは施行50年記念行事のテーマソングの位置付けで使われたみたいじゃのう。両方の歌詞を見てみるか？

「はい、お願いします。…さすがに古いだけあって、発明音頭も発明の歌もレトロな歌詞なのですね。」

その通りじゃ。しかし、どちらも70年以上前に作られた歌詞じゃが、一部は現在にも通じる趣がある。例えば、発明音頭の、『ハアー、進め國産 日本のもで 廣い世界の隅まで埋めよ』という部分などは、志は今と変わらぬのではないか？ 当時からのたゆまない努力によって、現在世界に通用する日本の技術力・信用力を勝ち得ることができていることは、誠に賞賛に値するのう。

「確かにそうですね。発明の歌の方にある『科學の日本』というフレーズは、まさに今日本が目指している方向と同じですよ。あと、『発明王者』というフレーズも一見愉快に思えますが、技術立国という意味で捉えるとずっと昔から目指すものは一貫して変わっていないのだと、改めて感心させられます。」

特許庁図書館には、発明音頭の振り付けの写真もあるそうじゃ。興味があれば行ってみるがよからう。

「ありがとうございます。昭和9年の気持ちになりながら曲を聞いて、踊ってみたいと思います。」

ほっほっほ。図書館の方に迷惑を掛けてはいかんぞ。

（文：特技懇編集委員会）

レコードは残念ながら特許庁図書館で聞くことはできないが、カセットテープであれば、借りることも、その場で聞くことも可能だ。

